

第2章 焼津市の現状等

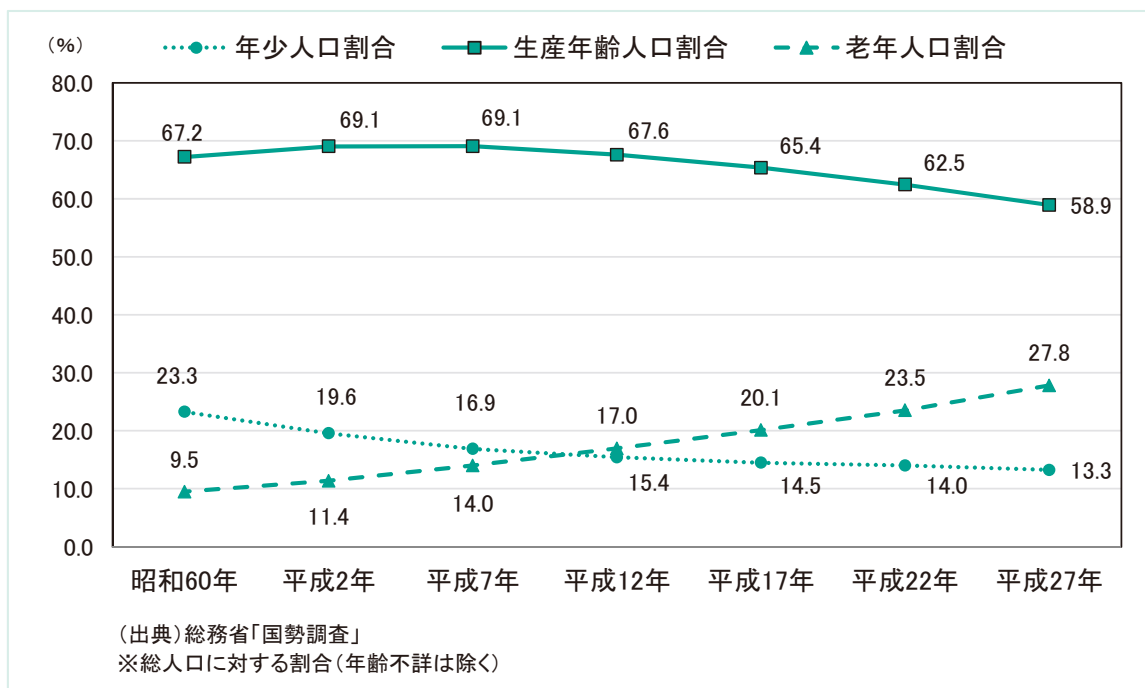
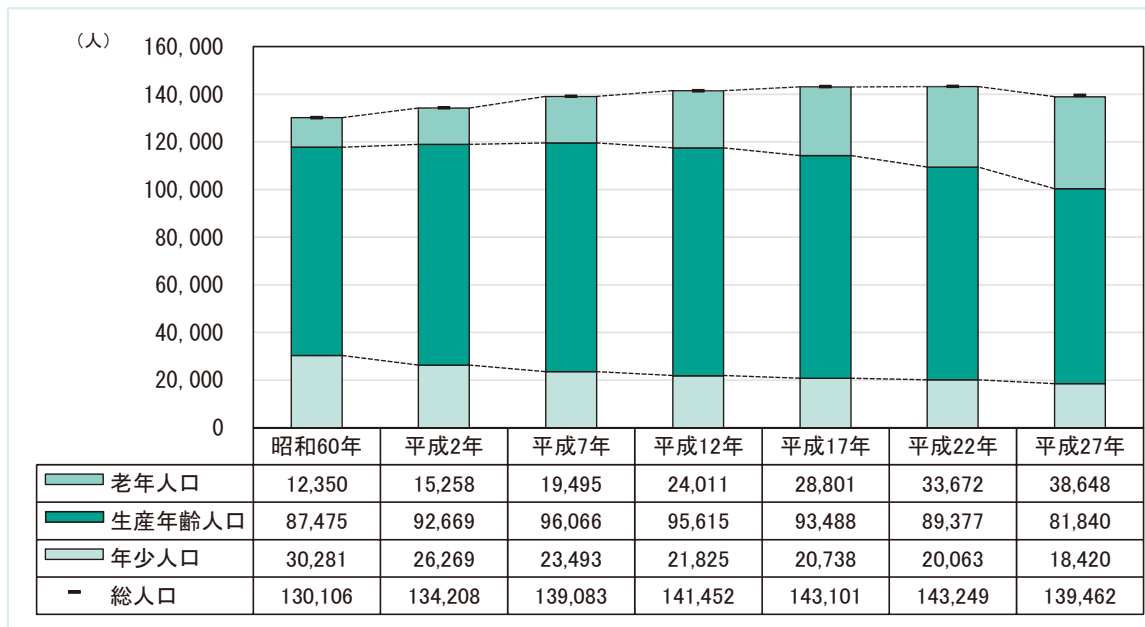
1 焼津市の概況

① 人口・世帯

焼津市の人口は、平成27年の国勢調査では139,462人となっています。年齢区分別では、15～64歳の生産年齢人口が多いものの、その比率は低下しており、平成7年に69.1%だった構成比は平成27年では58.9%に低下しています。

その一方で、65歳以上の老年人口は毎年上昇を続け、平成27年には38,648人となり、構成比は27.8%に上がっています。

【人口・人口構成の推移(各年10月1日現在・総務省統計局「国勢調査」(以下「国勢調査」)】

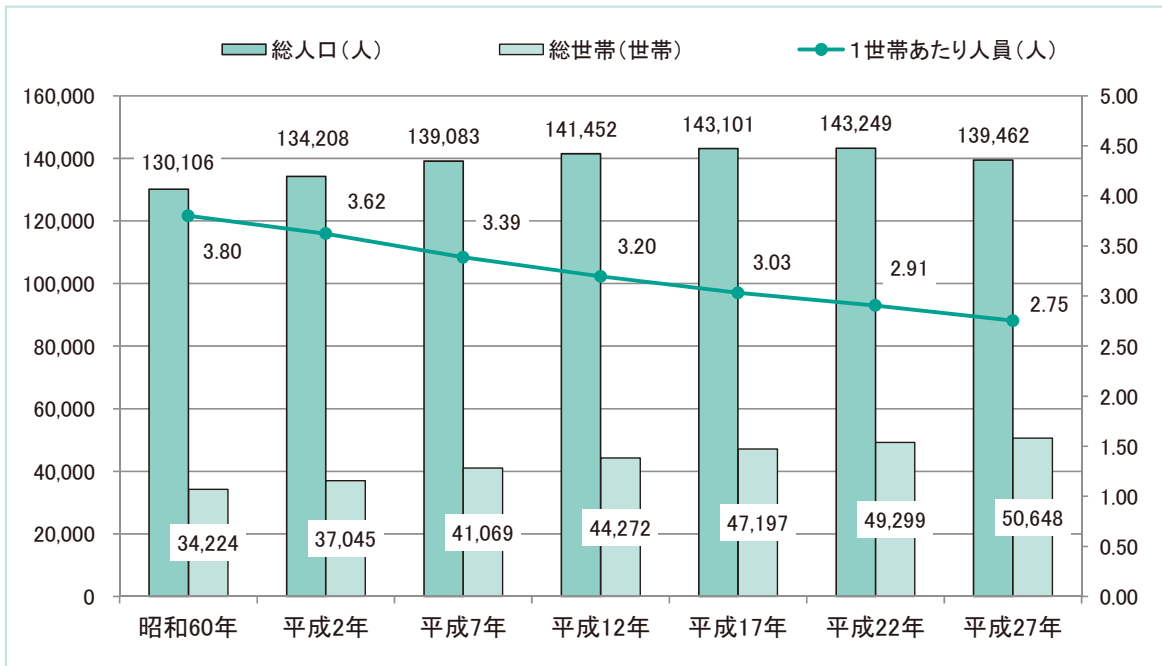


② 世帯数・世帯構成

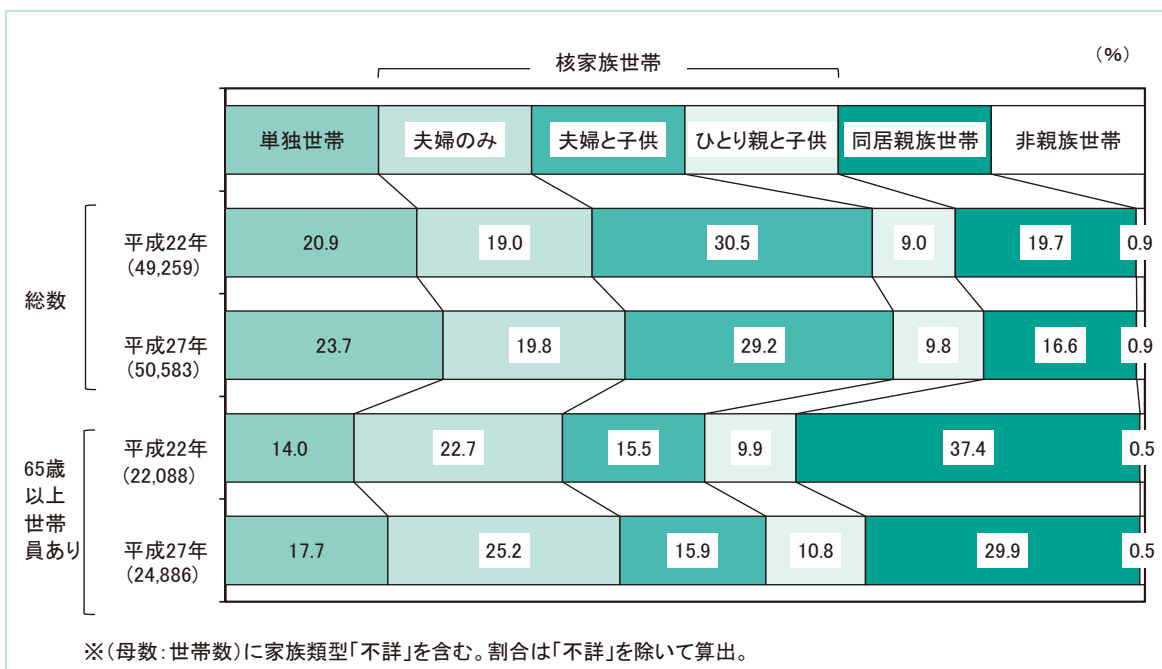
世帯数は増加している一方、1世帯あたりの人員は減少しており、平成27年は2.75人となり、2人台で緩やかに減少しています。

世帯構成は、平成22年と平成27年を比べると単独世帯の割合が増加しており、65歳以上の高齢者のいる世帯でも、単独世帯や夫婦のみ世帯の割合が増加しています。また、核家族世帯（夫婦のみ・夫婦と子供・ひとり親と子供の世帯）の割合の増加もみられています。

【人口・1世帯あたり人員の推移(国勢調査)】



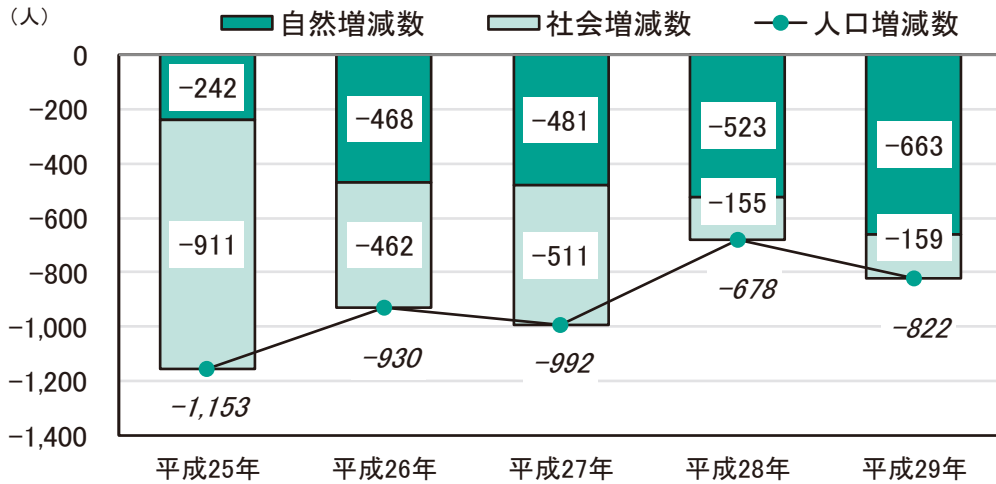
【世帯類型別構成割合の推移(国勢調査)】



③ 人口減少の状況

人口動態は、出生より死亡が多い「自然減」、転入より転出が多い「社会減」の状態が続いています。自然減の人数は年々増加していますが、社会減の人数は減少傾向にあります。

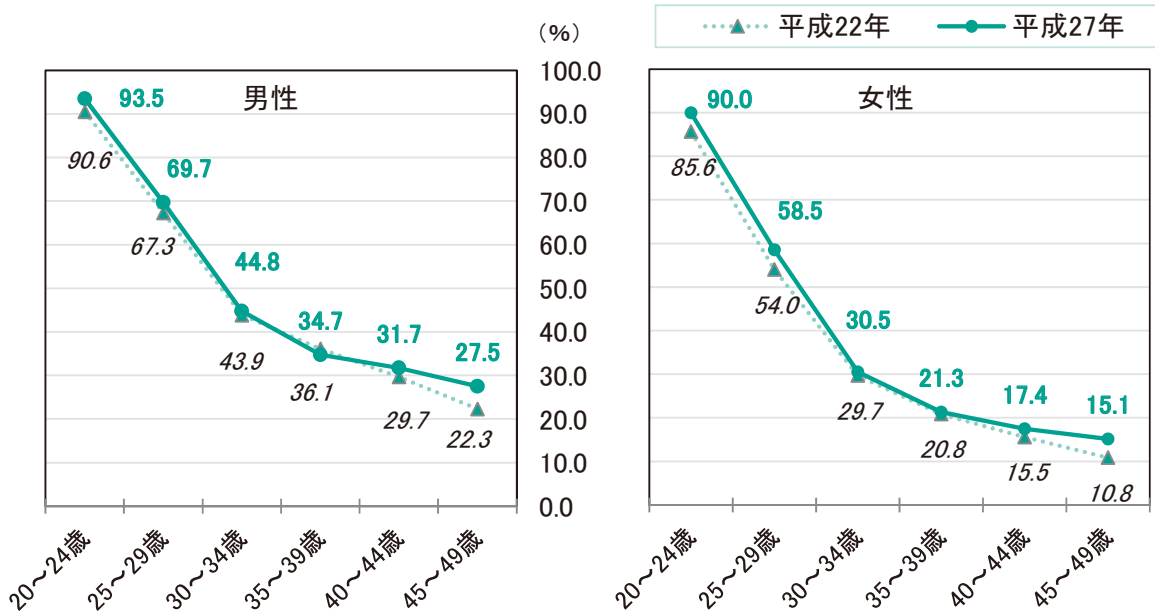
【人口動態(総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」)】



④ 未婚率

未婚率は、男女別・年齢5歳階級別の男性の「35～39歳」を除いたいずれの層においても、平成22年よりも平成27年の方が上回っています。

【男女5歳階級別未婚率(国勢調査)】

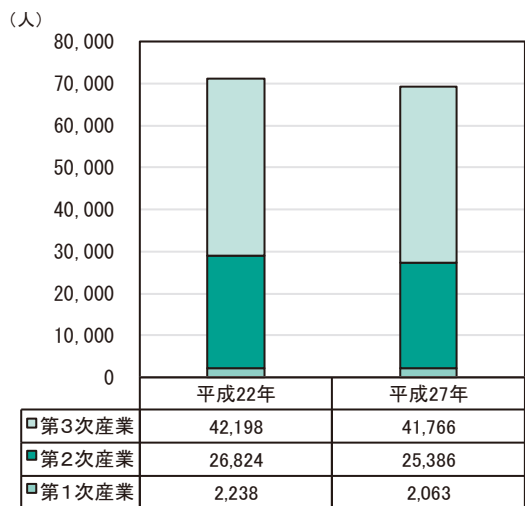


※未婚率は5歳階級別人口に占める割合 (配偶関係「不詳」を除く)

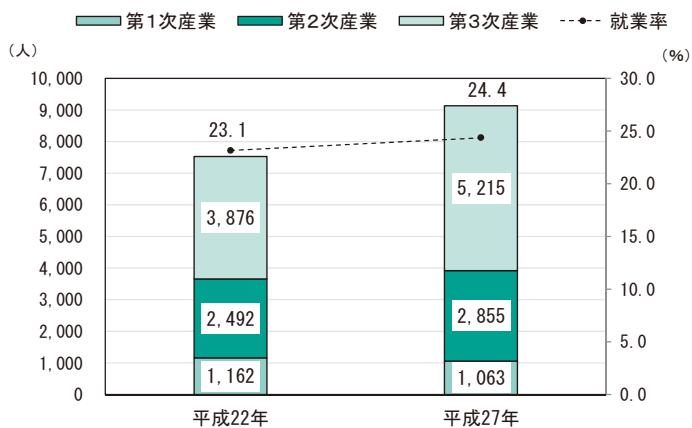
⑤ 就業構造等

就業者数は7万人台で推移しており、平成27年は71,138人で、産業別では第3次産業が41,766人と最も多く、次いで第2次産業の25,386人、第1次産業の2,063人となっています。また、全体の就業者は減少しましたが、65歳以上の就業者は増加しており、平成27年は9,000人を超えています。

【全就業者数の推移(国勢調査)】



【65歳以上の就業者数の推移(国勢調査)】



(上段:人、下段:%)

	65歳以上 就業人口	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
2010年(H22)	7,733 (100.0)	1,162 15.4	2,492 33.1	3,876 51.5	203 -
2015年(H27)	9,372 (100.0)	1,063 11.6	2,855 31.3	5,215 57.1	239 -

出典:総務省「国勢調査」
*産業3区分の構成比は「分類不能」を除いた割合

⑥ 生活保護の状況

市の被保護世帯及び被保護者数は年々増加しており、平成29年度の被保護世帯は536世帯、被保護者数は717人、保護率は人口千人あたり5.20となっています。

保護率は、伸び率は高いものの、平成27年度の静岡県平均6.5（「平成29年度厚生統計要覧（厚生労働省）」）と比較すると、低い水準にとどまっています。

【生活保護の推移(年平均・市地域福祉課)】

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
被保護世帯(世帯)	392	409	449	484	511	536
被保護者数(人)	546	575	635	671	704	717
保護率(‰)	3.76	3.86	4.44	4.72	4.98	5.20

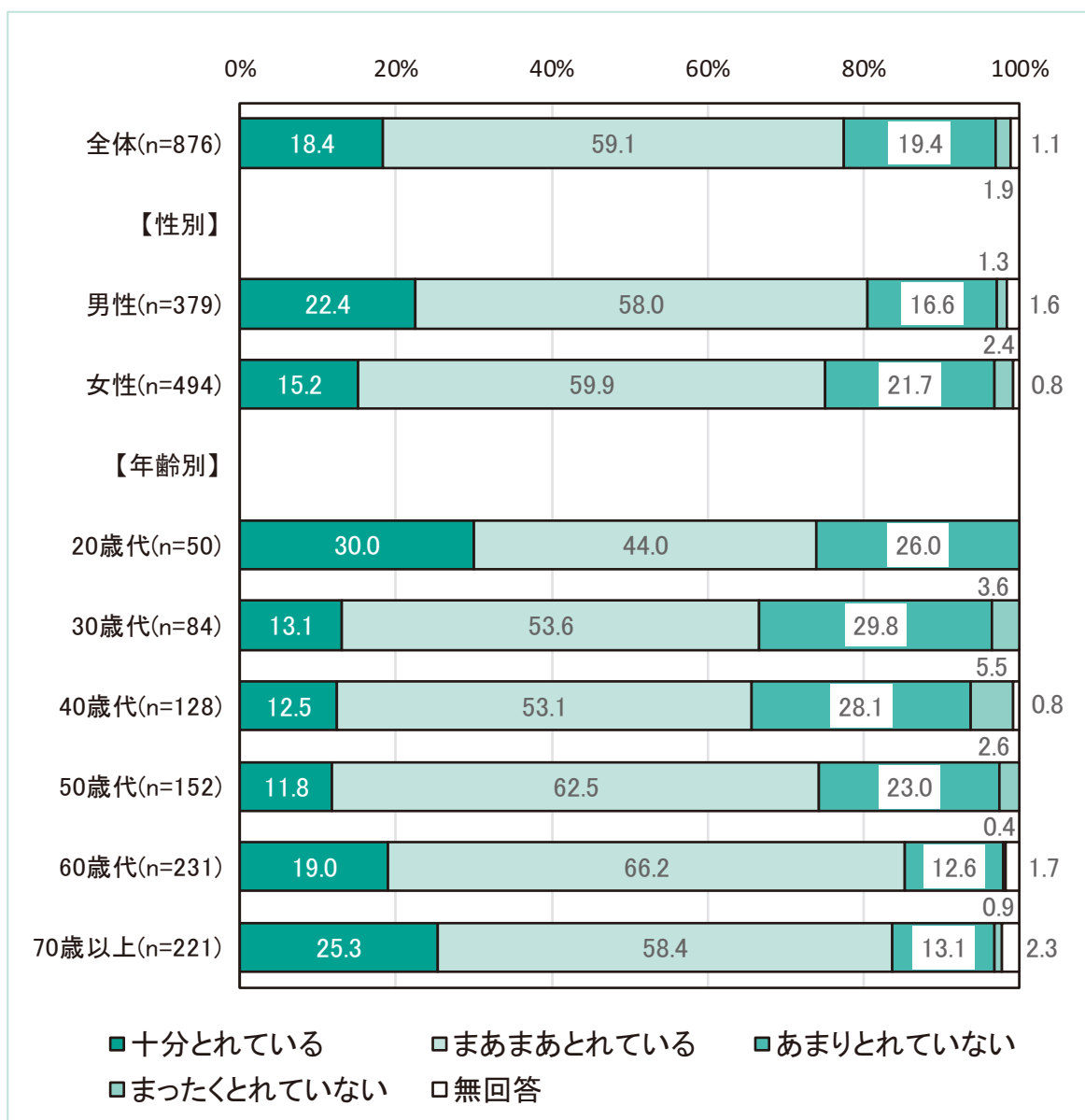


⑦ こころの健康に関する状況

【睡眠による休養の状況(H28 焼津市健康・食育に関するアンケート調査)】

平成28年度焼津市健康・食育に関するアンケート調査では、「いつもの睡眠で、休養が十分とれているか」に対して、全体で「十分とれている」と「まあまあとれている」をあわせた『とれている』が77.5%、「あまりとれていない」と「まったくとれていない」をあわせた『とれていない』が21.3%となっており、『とれている』が56.2ポイント上回っています。

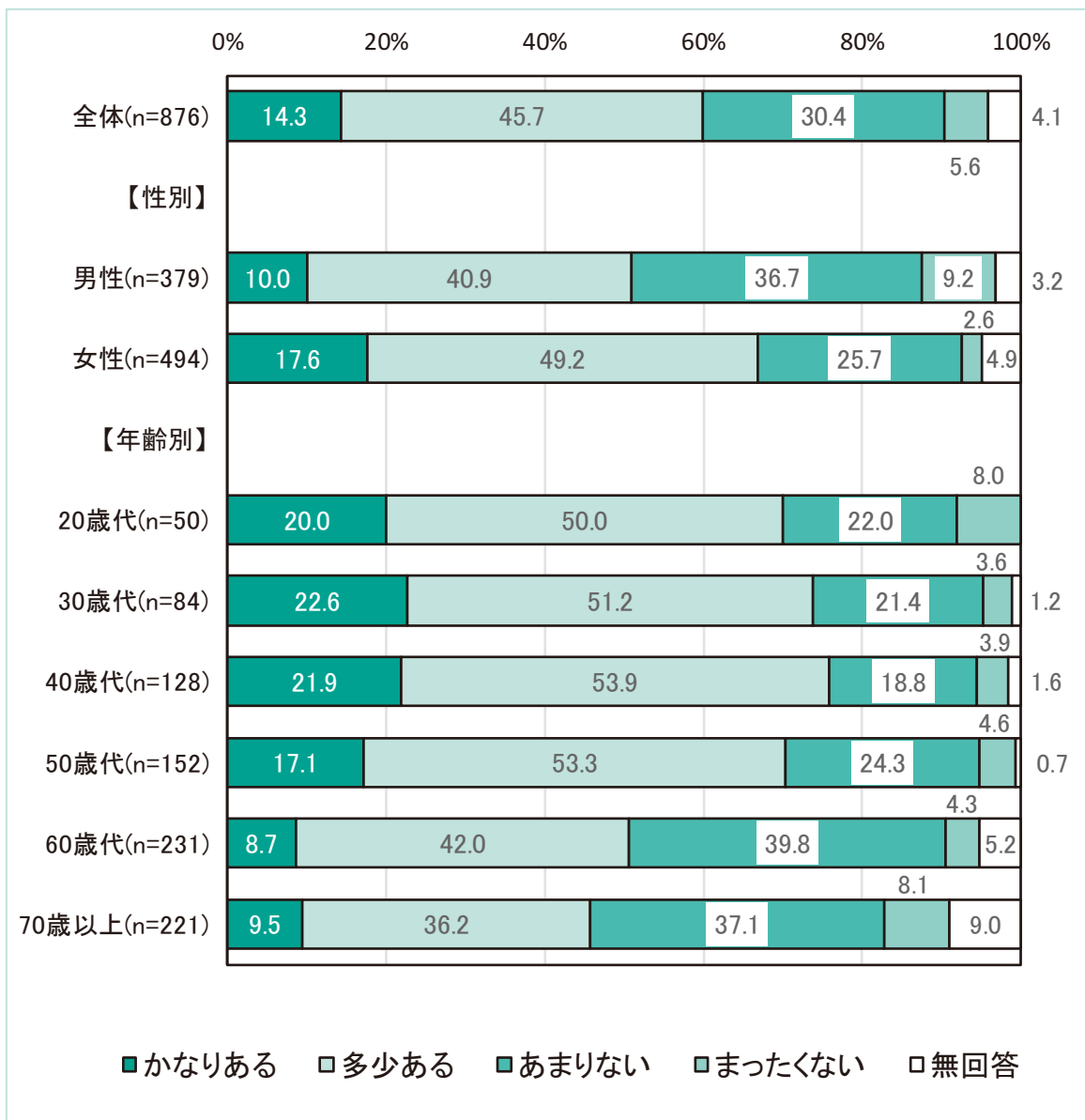
性別では、『とれていない』が、「男性」(17.9%)、「女性」(24.1%)で、「女性」が6.2ポイント上回っています。年齢別では、『とれている』が、60歳代で85.2%と最も高く、「70歳以上」(83.7%)、「50歳代」(74.3%)と続いています。



【不安・悩み・ストレスの有無(H28 焼津市健康・食育に関するアンケート調査)】

「この1か月間に不安・悩み・ストレスなどがあったか」については、全体で「かなりある」と「多少ある」をあわせた『ある』が60.0%、「あまりない」と「まったくない」をあわせた『ない』が36.0%となっており、『ある』が24.0ポイント上回っています。

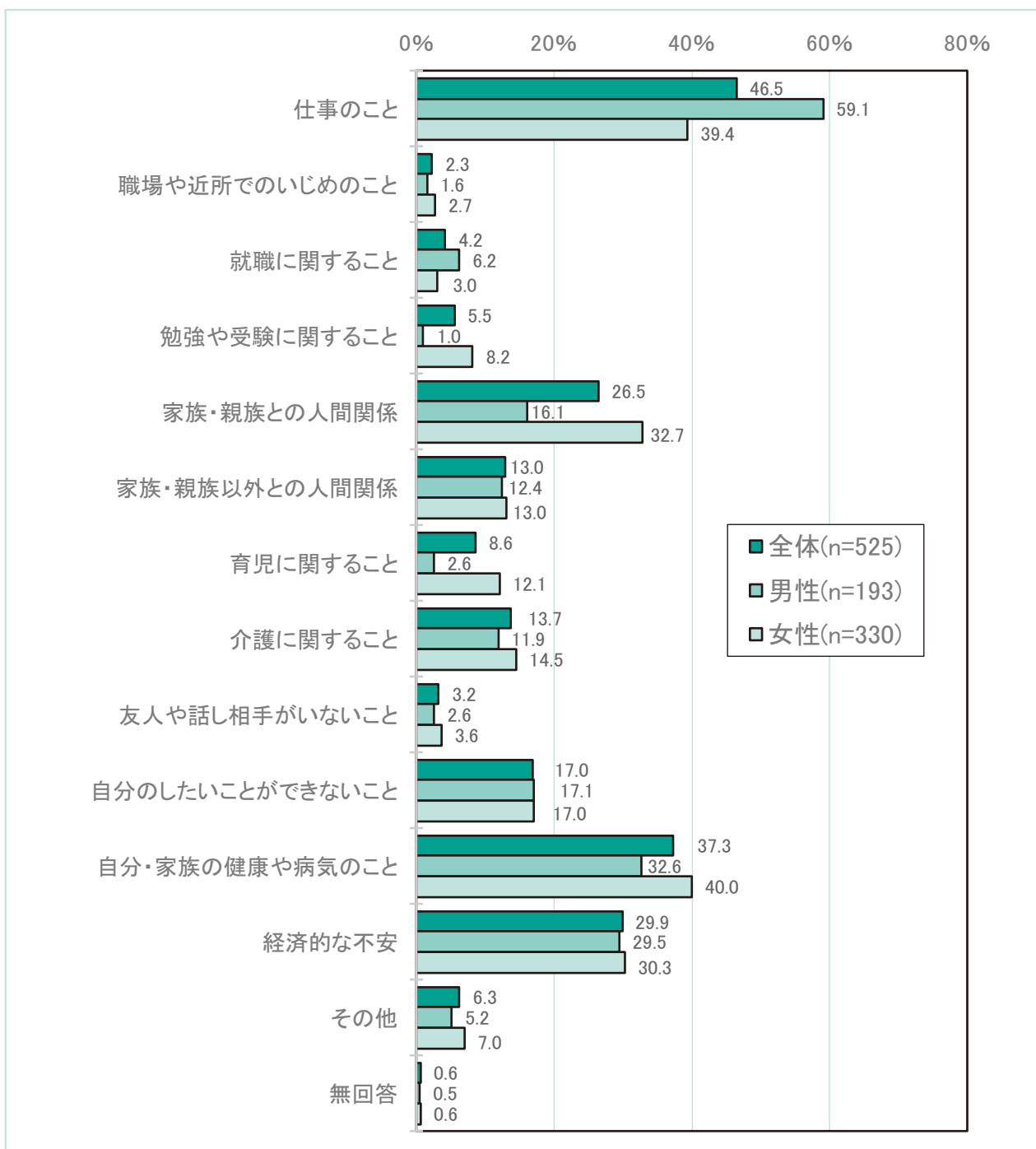
性別では、『ある』が「男性」(50.9%)、「女性」(66.8%)で、「女性」が15.9ポイント上回っています。年齢別では、『ある』が「40歳代」で75.8%と最も高く、「30歳代」(73.8%)、「50歳代」(70.4%)と続いています。



【不安・悩み・ストレスの原因(H28 健康・食育に関するアンケート調査)】

不安・悩み・ストレスの原因については、全体で「仕事のこと」が46.5%と最も高く、「自分・家族の健康や病気のこと」(37.3%)、「経済的な不安」(29.9%)と続いています。

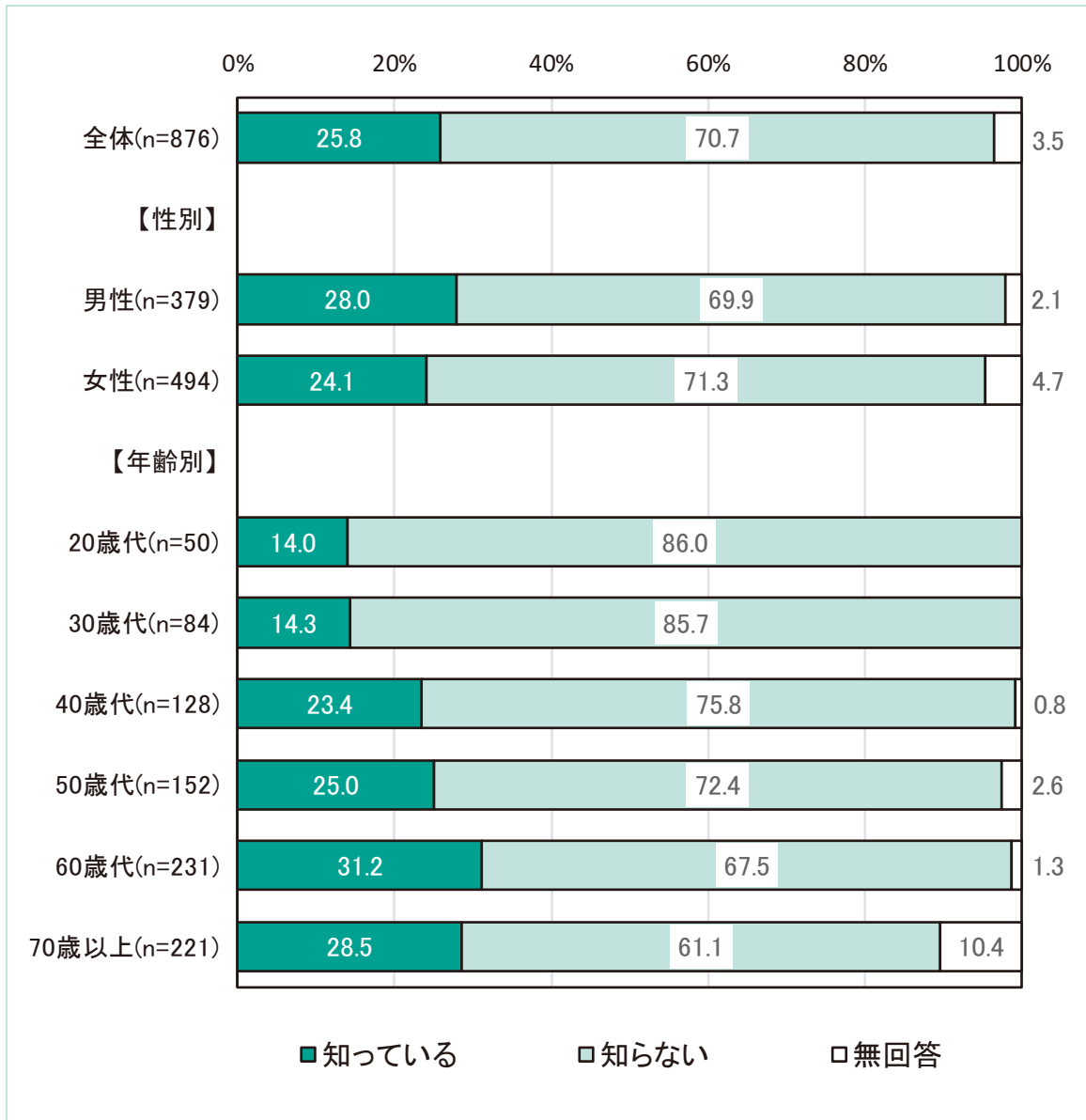
性別では、「男性」は「仕事のこと」が59.1%と最も高く、「自分・家族の健康や病気のこと」(32.6%)と続きます。「女性」では「自分・家族の健康や病気のこと」が40.0%と4割を占め、次いで「仕事のこと」(39.4%)となっています。「家族・親族との人間関係」をみると、「女性」(32.7%)、「男性」(16.1%)で、女性が16.6ポイント上回り、男女のストレスの原因に差がみられます。



【アルコールの適量についての認知度(H28 焼津市健康・食育に関するアンケート調査)】

成人の1日あたりのアルコールの適量については、全体で「知らない」が70.7%、「知っている」が25.8%となっています。性別では大きな差はみられません。

年齢別では年代が上がるにつれ、「知っている」が高くなる傾向があり、「60歳代」が31.2%と最も高くなっています。



Q. 適量のアルコールとは？ ⇒ A. 1日平均 純アルコール量で20gです。

ビール	中ビン1本
日本酒	1合
酎ハイ(7%)	350mL缶1本
ウィスキー	ダブル1杯

出典：厚生労働省 e-ヘルスネット（生活習慣病予防のための健康情報サイト）

※女性は男性に比べアルコール分解速度が遅いので、この2分の1程度が適当
 ※フラッシング反応（飲むと顔が赤くなる）を起こす人や、65歳以上の高齢者も分解速度が遅いので、飲酒量を控えることが推奨されています。

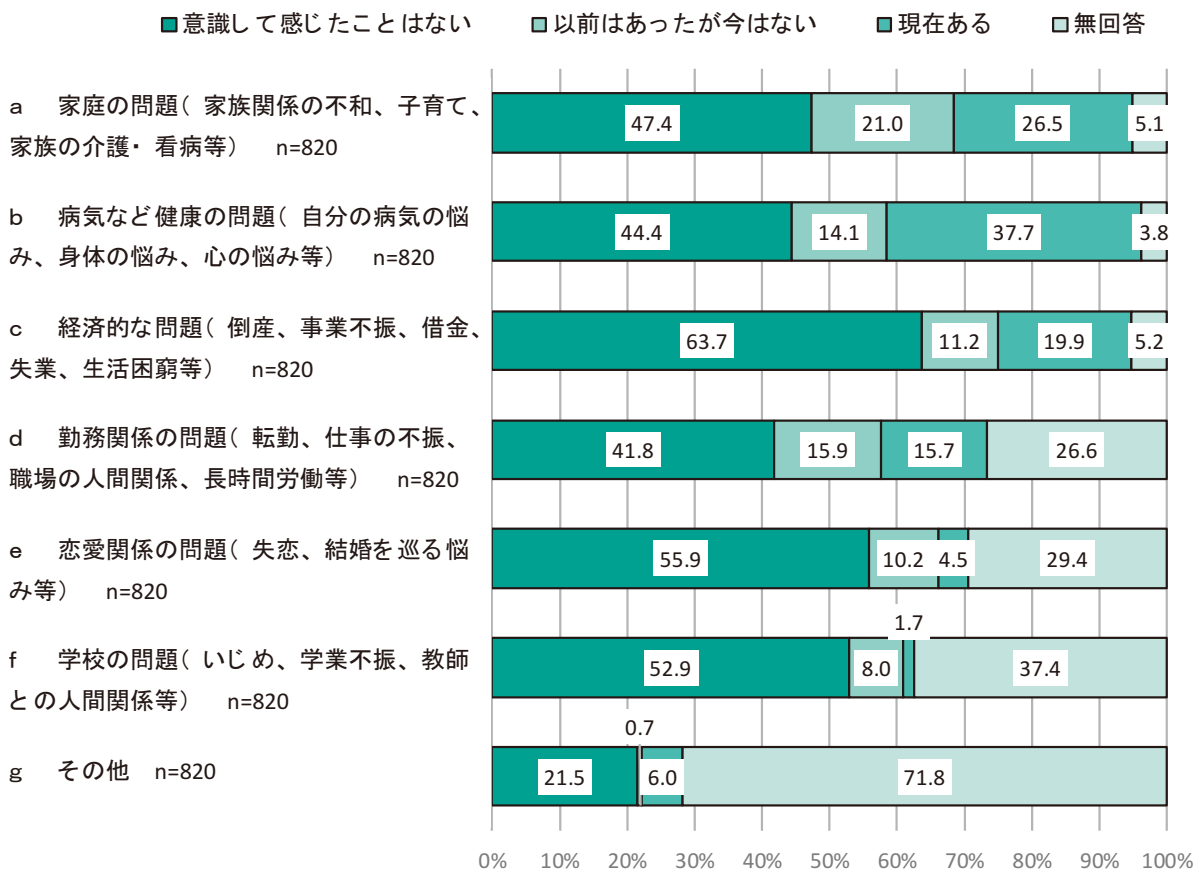
2 本計画に係るアンケート調査結果の概要

① こころの健康と生きるための支援に関する焼津市民意識調査結果

この調査は、平成30年8月に無作為抽出した焼津市民2,000人に対し、アンケート用紙を配布して実施し、820人から回答を得ました。焼津市民のこころの健康に関する市民の現状や考えなどを把握し、こころの健康と生きるための支援を推進するための基礎資料としています（以下、「平成30年度市民意識調査」とします）。

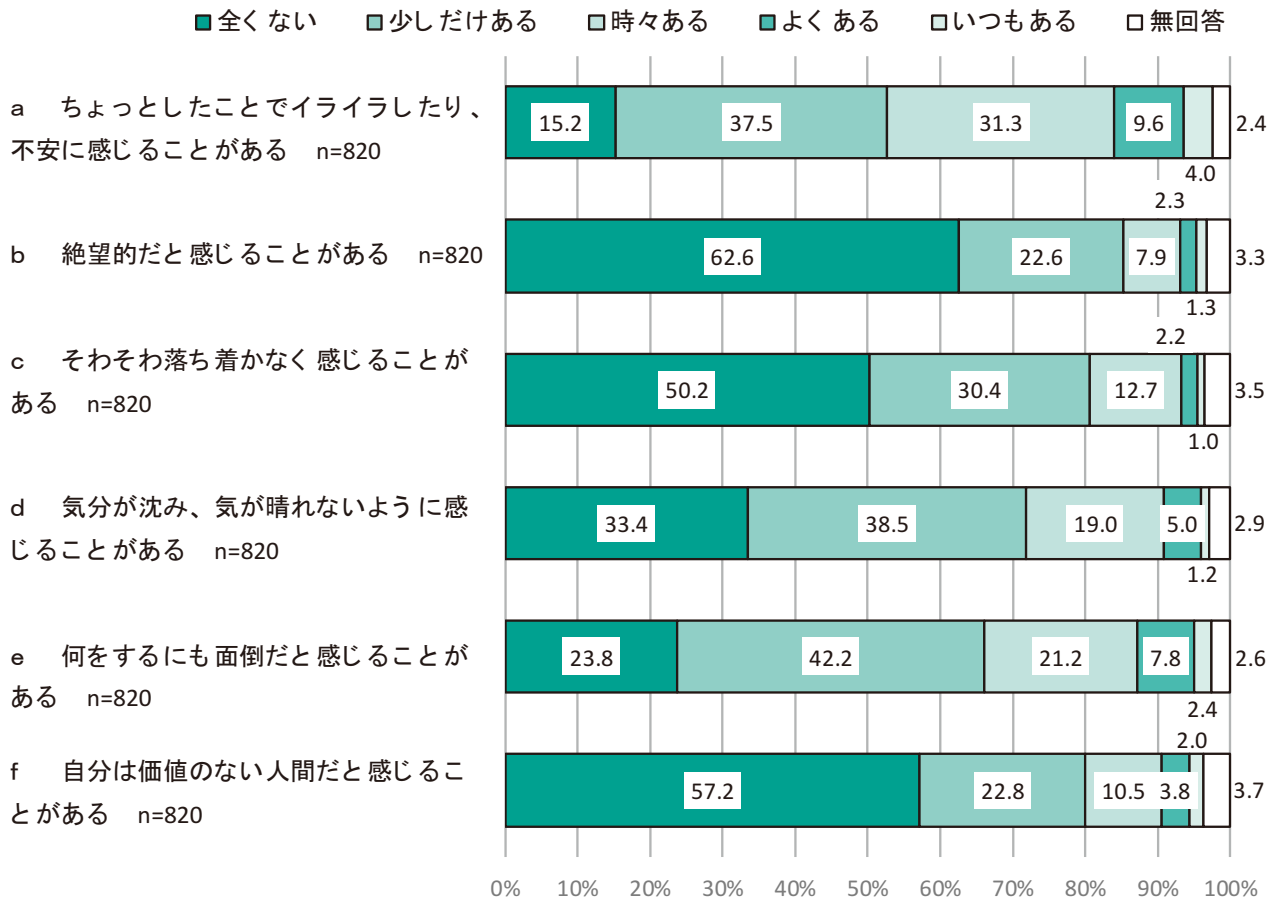
◇ あなたは日頃、aからgのそれぞれの問題に関して、悩みや苦勞、ストレス、不満を感じることがありますか。（それぞれに○は1つ）【問12】

- 「現在ある」との回答は、“b 病気など健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等）”が37.7%と比較的高く、“a 家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）”が26.5%、“経済的な問題（倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮等）”が19.9%、“勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）”が15.7%と続いています。
- 性別・年齢別でみると、「現在ある」との回答は、男女ともに10・20歳代と30歳代は“勤務関係の問題（転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等）”が比較的高く、男女ともに40歳代は“a 家庭の問題（家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等）”が比較的高くなっています。



◇ あなたは日々の生活の中で、次のように感じることはありませんか。(それぞれに○は1つ)【問13】

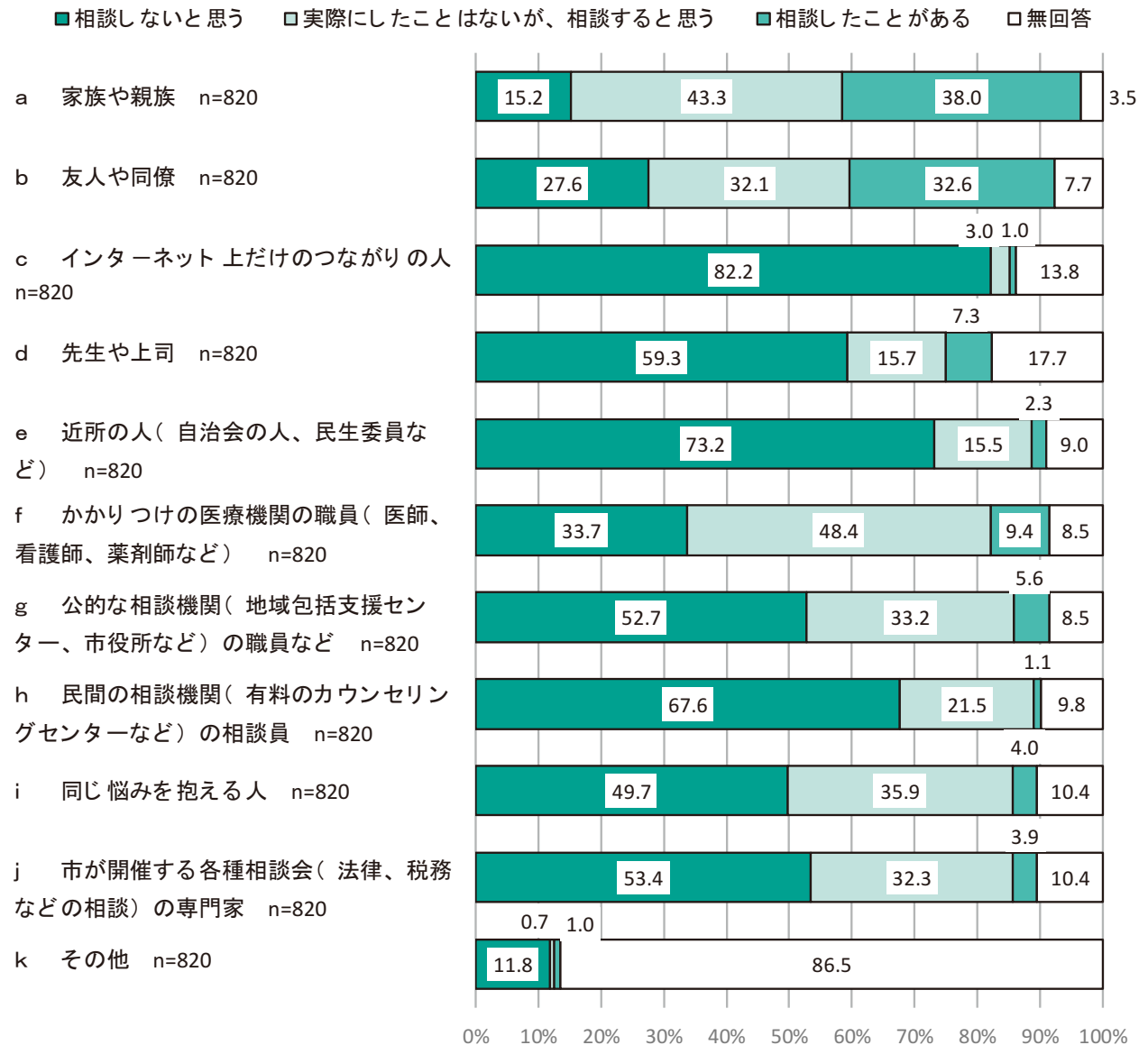
- 「よくある」又は「いつもある」との回答は、“a ちょっとしたことイライラしたり、不安に感じることもある”が13.6%と比較的高く、“e 何をするにも面倒だと感じることもある”が10.2%、“d 気分が沈み、気が晴れないように感じることもある”が6.2%、“f 自分は価値のない人間だと感じることもある”が5.8%と続いています。
- 性別・年齢別でみると、「よくある」又は「いつもある」との回答は、男性の10・20歳代と30歳代、女性の10・20歳代は“e 何をするにも面倒だと感じることもある”が比較的高くなっています。



◇ あなたは悩みやストレスを感じた時に、以下の人々に相談すると思いますか。

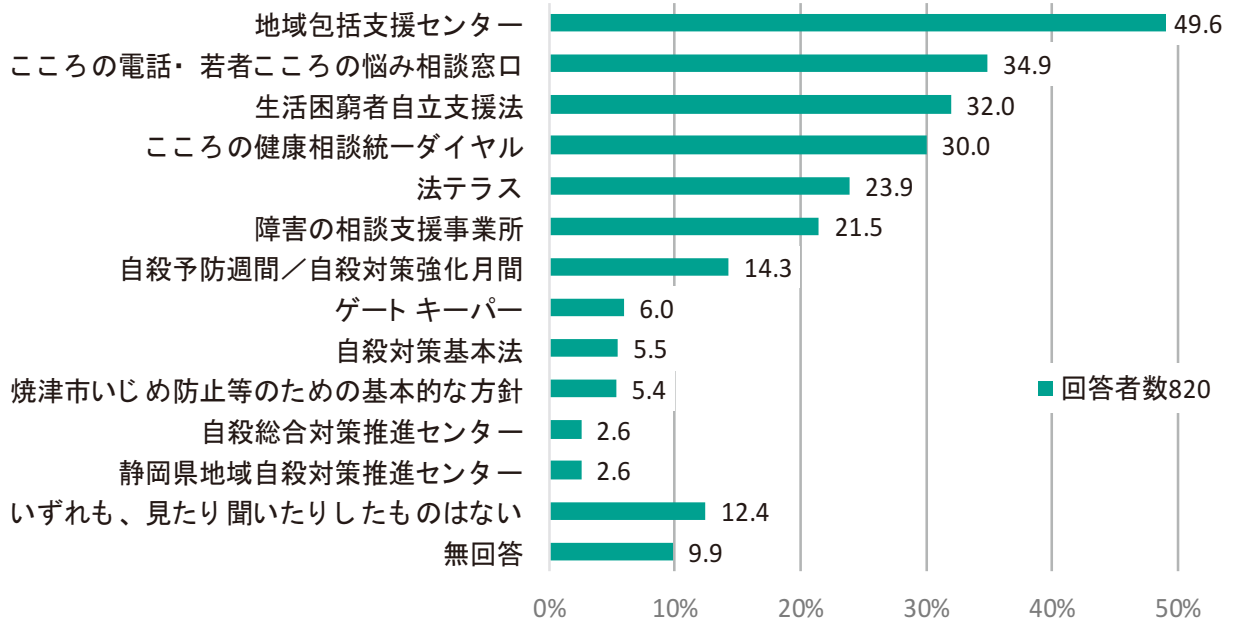
(それぞれに○は1つ)【問 17】

- 「実際にしたことはないが、相談すると思う」又は「相談したことがある」との回答は、“a 家族や親族”が81.3%と高く、“b 友人や同僚”が64.7%、“f かかりつけの医療機関の職員（医師、看護師、薬剤師など）”が57.8%、“i 同じ悩みを抱える人”が39.9%と続いています。
- 性別・年齢別でみると、「実際にしたことはないが、相談すると思う」又は「相談したことがある」との回答は、いずれの性別・年齢も“a 家族や親族”、“b 友人や同僚”、“f かかりつけの医療機関の職員（医師、看護師、薬剤師など）”が高くなっています。
- “e 近所の人（自治会の人、民生委員など）”は、年齢が高いほど「実際にしたことはないが、相談すると思う」又は「相談したことがある」との回答が高く、“c インターネット上だけのつながりの人”は、若い年齢ほど「実際にしたことはないが、相談すると思う」又は「相談したことがある」との回答が高くなっています。



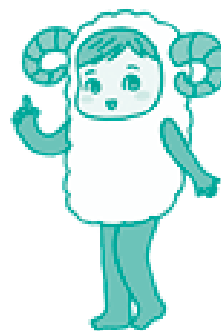
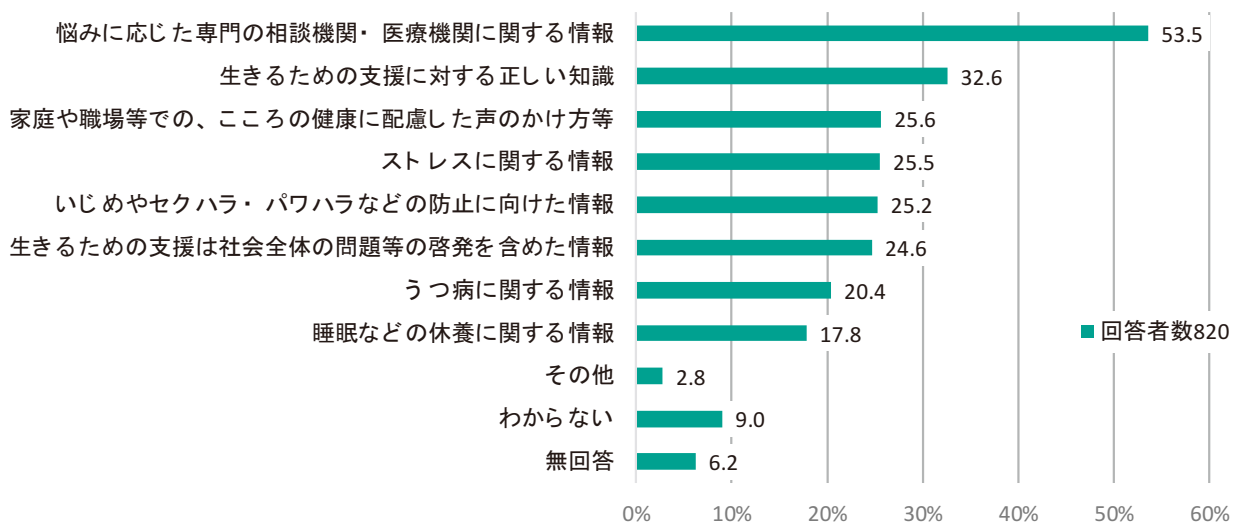
◇ あなたは、次の法律や言葉、窓口等を知っていますか。(〇はいくつでも)【問 25】

- 「地域包括支援センター」が 49.6%と最も高く、次いで「こころの電話・若者こころの悩み相談窓口」が 34.9%、「生活困窮者自立支援法」が 32.0%、「こころの健康相談統一ダイヤル」が 30.0%と続いています。
- 性別・年齢別でみると、男女ともに 10・20 歳代、30 歳代は「こころの電話・若者こころの悩み相談窓口」が比較的高く、男性の 30 歳代、40 歳代は「法テラス」が比較的高くなっています。
- 年齢が高いほど「地域包括支援センター」が高くなっており、男性の 30 歳代、男女の 40 歳代は「ゲートキーパー」が比較的高くなっています。



◇ あなたは、生きるための支援について、市役所がどのような情報を市民に知らせていくことが必要だと思いますか。（○は3つまで）【問 26】

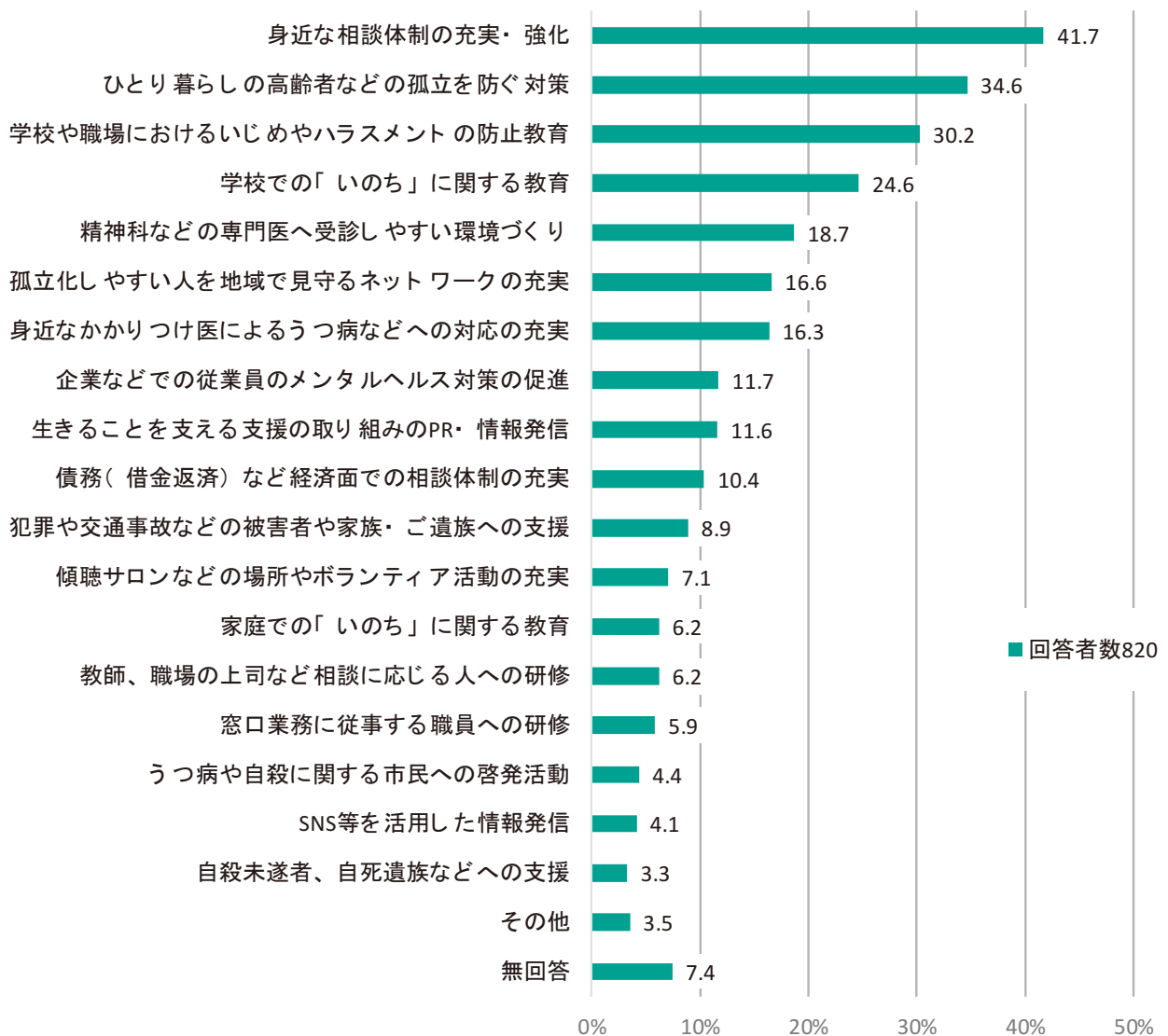
- 「悩みに応じた専門の相談機関・医療機関に関する情報」が53.5%と最も高く、次いで「生きるための支援に対する正しい知識」が32.6%、「家庭や職場等での、こころの健康に配慮した声のかけ方等」が25.6%、「ストレスに関する情報」が25.5%と続いています。
- 性別・年齢別でみると、男性の10・20歳代と50歳代は「生きるための支援に対する正しい知識」が比較的高く、男性の30歳代は「いじめやセクハラ・パワハラなどの防止に向けた情報」が63.6%と比較的高くなっています。
- 男女ともに80歳以上は、「生きるための支援は社会全体の問題等の啓発を含めた情報」が比較的高くなっています。



◇ **生きることを支えるための支援として、どのような対策が特に重要だと思いますか。**

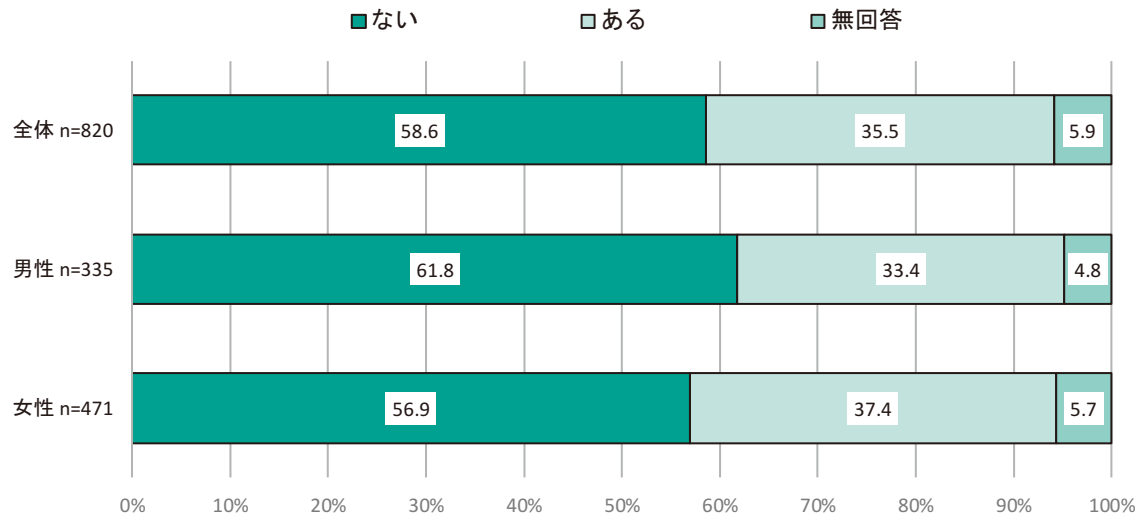
(○は3つまで)【問 27】

- 「身近な相談体制の充実・強化」が41.7%と最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者などの孤立を防ぐ対策」が34.6%、「学校や職場におけるいじめやハラスメント（嫌がらせ）の防止教育」が30.2%、「学校での『いのち』に関する教育」が24.6%と続いています。
- 性別・年齢別でみると、男性の10・20歳代、男女ともに30歳代は「学校や職場におけるいじめやハラスメント（嫌がらせ）の防止教育」が比較的高く、女性の10・20歳代は「精神科などの専門医へ受診しやすい環境づくり」が40.7%と比較的高くなっています。
- 男性の80歳以上は、「ひとり暮らしの高齢者などの孤立を防ぐ対策」が58.3%と高くなっています。男女ともに30歳代、40歳代は「学校での『いのち』に関する教育」が比較的高く、女性の10・20歳代は、「SNS等を活用した情報発信」が29.6%と比較的高くなっています。



◇ あなたはこれまでに、生きるのが辛いと考えたことはありますか。(○は1つ)【問 28】

- 生きるのが辛いと考えたことがあるかについては、「ない」が58.6%、「ある」が35.5%となっています。
- 性別で見ると、「ない」は男性が61.8%、女性は56.9%で、「ある」は男性が33.4%、女性が37.4%となっています。



※性別の無回答者が14名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【性別・年齢別】

- 性別・年齢別で見ると、女性の40歳代のみ、「ある」と「ない」が同程度となっています。

性別・年齢	回答者数	ない (%)	ある (%)	無回答 (%)
全体	820	58.6%	35.5%	5.9%
男性 ☒ 全体	335	61.8%	33.4%	4.8%
男性-10・20歳代	16	56.2%	43.8%	0.0%
男性-30歳代	22	50.0%	45.5%	4.5%
男性-40歳代	39	53.8%	43.6%	2.6%
男性-50歳代	49	51.1%	46.9%	2.0%
男性-60歳代	86	60.5%	37.2%	2.3%
男性-70歳代	87	75.9%	17.2%	6.9%
男性-80歳以上	36	63.9%	22.2%	13.9%
女性 ☒ 全体	471	56.9%	37.4%	5.7%
女性-10・20歳代	27	51.9%	48.1%	0.0%
女性-30歳代	42	54.7%	42.9%	2.4%
女性-40歳代	67	49.2%	49.3%	1.5%
女性-50歳代	71	47.9%	45.1%	7.0%
女性-60歳代	111	57.7%	40.5%	1.8%
女性-70歳代	113	67.3%	23.0%	9.7%
女性-80歳以上	40	60.0%	22.5%	17.5%

※性別の無回答者が14名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【世帯構成別】

- 世帯構成別でみると、ひとり暮らしは「ある」が50.0%と最も高くなっています。

世帯構成	回答者数	ない	ある	無回答
全体	820	58.6%	35.5%	5.9%
ひとり暮らし	74	41.9%	50.0%	8.1%
夫婦ふたり暮らし	190	61.6%	32.1%	6.3%
親と子（2世代）	364	57.4%	36.8%	5.8%
祖父母と親と子（3世代）	121	68.5%	29.8%	1.7%
その他	62	61.3%	33.9%	4.8%

※世帯構成の無回答者が9名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【配偶者との現在の関係別】

- 配偶者との現在の関係別でみると、「ある」は、「別居している」が62.5%で最も高く、次いで「配偶者・パートナーはいない」が54.1%、「単身赴任中」が50.0%となっています。

配偶者との関係	回答者数	ない	ある	無回答
全体	820	58.6%	35.5%	5.9%
同居している	562	64.4%	30.4%	5.2%
単身赴任中	12	50.0%	50.0%	0.0%
別居している	8	12.5%	62.5%	25.0%
離別・死別した	100	54.0%	39.0%	7.0%
配偶者・パートナーはいない	124	41.9%	54.1%	4.0%

※配偶者との関係についての無回答者が14名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【職業別】

- 職業別でみると、「ある」は、「無職（求職中）」が60.0%で最も高く、会社員・団体職員等（役員・管理職以外）が48.6%、パート・アルバイトが47.3%と続いています。

職業	回答者数	ない	ある	無回答
全体	820	58.6%	35.5%	5.9%
会社・団体などの役員	25	68.0%	24.0%	8.0%
会社員・団体職員等（管理職）	29	65.6%	31.0%	3.4%
会社員・団体職員等（役員・管理職以外）	181	48.6%	48.6%	2.8%
自営業（事業経営・個人商店など）	33	75.7%	18.2%	6.1%
派遣	8	75.0%	25.0%	0.0%
パート・アルバイト	129	51.9%	47.3%	0.8%
専業主婦・主夫	94	67.0%	29.8%	3.2%
学生	8	62.5%	37.5%	0.0%
自由業（専門的知識や技術を生かした職業）	12	66.7%	33.3%	0.0%
その他	27	74.1%	22.2%	3.7%
無職（求職中）	5	40.0%	60.0%	0.0%
無職（仕事をしたいが、現在は求職していない）	49	53.1%	36.7%	10.2%
無職（仕事をしたいと思っていない）	23	60.9%	21.7%	17.4%
無職（その他、高齢等）	189	61.9%	25.9%	12.2%

※職業の無回答者が8名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【町内の人や近所の人との交流機会の有無別】

- 町内の人や近所の人との交流機会の有無別でみると、「ある」は、交流機会が「ほとんどない」が47.6%と最も高く、次いで「あまりない」が41.8%と続いています。

町内・近所との交流の機会	回答者数	ない	ある	無回答
全体	820	58.6%	35.5%	5.9%
よくある	244	64.4%	26.6%	9.0%
ときどきある	349	59.9%	36.4%	3.7%
あまりない	141	54.7%	41.8%	3.5%
ほとんどない	82	43.9%	47.6%	8.5%

※交流機会についての無回答者が4名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【家庭の家計の余裕別】

- 家庭の家計の余裕別でみると、「全く余裕がない」は、「ある」が56.9%と最も高くなっています。

家計の余裕	回答者数	ない	ある	無回答
全体	820	58.6%	35.5%	5.9%
全く余裕がない	79	38.0%	56.9%	5.1%
あまり余裕がない	264	57.2%	37.9%	4.9%
どちらともいえない	187	56.6%	36.4%	7.0%
ある程度余裕がある	240	66.6%	28.8%	4.6%
かなり余裕がある	10	80.0%	20.0%	0.0%
分からない	32	59.3%	21.9%	18.8%

※家計の余裕についての無回答者が8名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【生きるのが辛いと感じたことの有無別の悩みや苦勞、ストレス、不満】

- 生きるのが辛いと感じたことの有無別に、日頃の悩みや苦勞、ストレス、不満についての回答をみると、生きるのが辛いと感じたことが「ある」人の抱える問題は、「病気など健康の問題」が52.6%と最も高く、次いで「家庭の問題」(38.5%)、「経済的な問題」(31.6%)となっています。

	合計	家庭の問題(家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病等)	病気など健康の問題(自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み等)	経済的な問題(倒産、事業不振、借金、失業、生活困窮等)	勤務関係の問題(転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働等)	恋愛関係の問題(失恋、結婚を巡る悩み等)	学校の問題(いじめ、学業不振、教師との人間関係等)	その他	無回答
全体	820	26.5%	37.7%	19.9%	15.7%	4.5%	1.7%	6.0%	41.0%
ある	291	38.5%	52.6%	31.6%	27.5%	8.6%	2.1%	9.3%	22.7%
ない	481	20.4%	28.9%	13.1%	9.6%	2.5%	1.5%	3.5%	50.9%

※生きるのが辛いと感じたことの有無の無回答者が48名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

【生きるのが辛いと感じたことの有無別の日々の生活の中で感じていること】

- 生きるのが辛いと感じたことの有無別に、日々の生活の中で感じていることの回答をみると、生きるのが辛いと感じたことが「ある」場合は、無回答を除くと、「ちょっとしたことでイライラしたり、不安に感じることもある」が22.7%と最も高く、次いで「何をすることも面倒だと感じることもある」(19.2%)。「気分が沈み、気が晴れないように感じることもある」(13.7%)となっています。

	合計	ちょっとしたことでイライラしたり、不安に感じることもある	絶望的だと感じることもある	そろそろ落ち着かなく感じることもある	気分が沈み、気が晴れないように感じることもある	何をすることも面倒だと感じることもある	自分は価値のない人間だと感じることもある	無回答
全体	820	13.7%	3.7%	3.2%	6.2%	10.2%	5.7%	78.7%
ある	291	22.7%	7.9%	6.9%	13.7%	19.2%	12.4%	64.3%
ない	481	7.5%	0.8%	0.6%	1.7%	4.6%	1.2%	88.1%

※生きるのが辛いと感じたことの有無の無回答者が48名いるため、合計数は全体の回答者数とは一致しません。

② 事業者・関係団体ヒアリング調査

本計画を策定するにあたり、焼津市における現状の課題を把握することを目的として、事業者・団体ヒアリング調査を実施しました。調査結果は、本計画の基本施策の検討等に活用しています。

◇調査時期：平成30年8月

◇調査の対象事業者及び調査方法：

計画策定委員会の委員の所属する団体をはじめとした19の関係事業者・団体を対象に、郵送又はEメールにより調査票の配布・回収を行いました。結果については整理・集約し、策定委員会において情報の共有と意見交換につなげています。



3 現状からみた課題及び今後の方向性

自ら命を絶った方に係るデータ、各種アンケート・ヒアリングからみられる現状、基本認識から整理した焼津市の現状と課題、さらに強化すべき取組み等は次のとおりです。

【予防】

①相談窓口機能の充実について

行政等において、各種相談事業、支援策が実施されています。しかし、その情報が市民に十分に認知されておらず、相談窓口としての機能を十分に発揮できていない状況にあります。今後は、地域における相談体制のより一層の充実と相談窓口情報等の分かりやすい発信をしていく必要があります。

②人材育成について

生きることを支えるための正しい知識の普及啓発とともに、自ら命を絶つ危険性が高い人の早期発見、見守りへの対応を図るためには、その危険を示すサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要に応じて関係機関につなぎ、見守るゲートキーパーの役割を担う人材の養成が必要です。

本市ではこれまでも、ゲートキーパー養成研修を開催してきましたが、今後も様々な分野・対象に向けてゲートキーパー養成研修を開催し、多くの市民が「ゲートキーパー」を理解し、「ゲートキーパー」となって、周りの人の異変に気づいたときに適切に行動ができるよう人材育成を進める必要があります。

③市民への普及啓発について

自殺予防週間（9月10～16日）、自殺対策強化月間（3月）等において様々な方法で予防に関する啓発活動を実施しています。しかし、現在の普及啓発では、正しい知識の普及の浸透度合いが十分とはいえず、今後もより一層の普及啓発を実施する必要があります。

④健康問題について

健康の維持・増進に関する事業は、健康づくり課をはじめ様々な課において行われています。しかし、自ら命を絶つ原因・動機では、「不詳」を除くと、「健康問題」が最も多くなっています。今後もこころと身体の健康を総合的に支援できる体制の整備に努め、取組みを強化する必要があります。

⑤未成年からのストレス対処法に係る教育について

いじめの未然防止や若年層へのこころの健康、ストレス解消の対処法に係る取組みは学校等において実施されています。今後も社会において直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育（SOSの出し方に関する教育）等、生きることを支える教育を未成年から実施する必要があります。

⑥経済・生活問題を抱える中高年男性への取組みについて

データからは、焼津市では中高年の男性が、勤務問題や生活困窮を原因・動機として

自らの命を絶つケースが比較的多いことが分かります。経済・生活問題、勤務問題に関する各種相談事業は実施されていますが、事業の周知や各種相談機関等との連携を強化し、相談体制をより一層強化する必要があります。

【危機対応】

⑦うつ病・アルコール依存症について

多くが、様々な悩みにより心理的に追い詰められた結果、うつ病やアルコール依存症等の精神疾患を発症しています。この事実を踏まえ、今後は、健診事業や職場におけるストレスチェック等でうつ病のスクリーニングを実施すること等により、ハイリスク者を早期発見し、必要・適切な情報の提供や相談ができる体制の整備等を進める必要があります。また、アルコール依存症等については、自助組織等の活動を把握し、団体の活動を支援するとともに、連携して支援できる体制を構築する必要があります。

⑧未遂者への支援について

再び自ら命を絶つリスクが高いと判断された人へ、精神科受診勧奨・紹介や必要な支援機関へ丁寧につなぐ必要があります。そのため、精神科医療機関等との日常的な情報の交換や助言等が受けられるような体制の整備をする必要があります。

【遺族支援】

⑨遺族等への対応について

大切な人を亡くし、悲しみ・苦しみを抱えている親族等が適切な支援を受けることができるようにすることも重要です。そのため、県が行っている自死遺族相談等の必要かつ適切な情報を提供し、支援窓口へ丁寧につなぐなど、支援体制の充実を図る必要があります。

【連携・ネットワークづくり】

⑩市内及び地域連携の強化とネットワークづくりについて

市内では、民生委員・児童委員、老人クラブなどの協力のもと、地域での見守り活動が行われています。しかし、単独世帯や核家族世帯の増加により、地域とのつながりが希薄な世帯が増える傾向にあることから、今後も地域団体等との協力のもと見守り活動等を実施し、地域ぐるみで生きることを支える取組みを進める必要があります。

また、要因となる複合的な問題のうち、解決可能な問題の支援をするためにも、まずは市役所内の体制を強化するとともに、多様な関係機関や民間団体等との情報共有や連携強化を行うことが必要です。

今後は、各種相談支援機関が集まり、相談・支援の状況について情報交換を行うとともに、有効なネットワークづくりを検討する必要があります。

「自ら命を絶つことは防ぐことができる社会的な問題である」という共通認識のもと、各事業の目標だけでなく、生きることを支える視点を併せ持ち、全市的なPDCAサイクルを通じて対策が進化できるように、関連施策と有機的に連携する必要があります。